

## 中国、第7回国勢調査結果を漸く発表

### ◆国勢調査の結果、総人口は14億1,178万人に

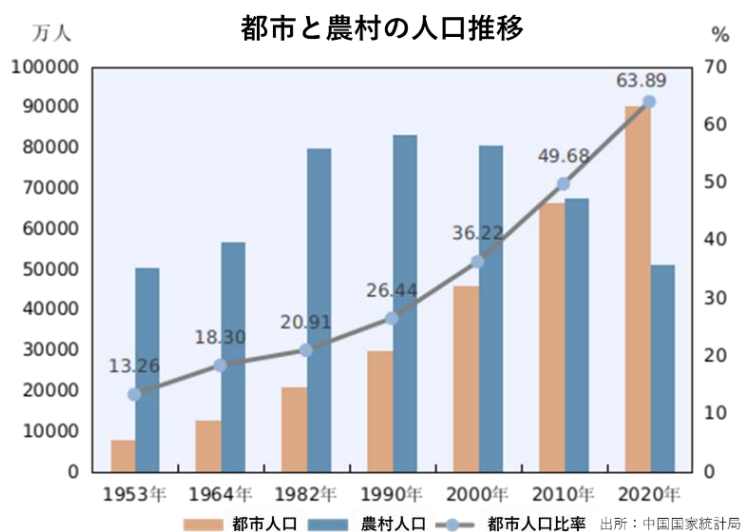
2021年5月11日に発表された第7回国勢調査（人口普查）の結果、中国の総人口は14億1,178万人で10年の第6回の13億3,972万人と比較して、7,206万人（5.38%）増加したが、平均年間増加率は0.53%となり、00年から10年までの0.57%と比べ、0.04ポイントの減少となり、人口増加ペースの鈍化が判明した。

人口の年齢構成は0～14歳人口は2億5,338万人（比率：17.95%）、15～59歳は8億9,438万人（同63.35%）、60歳以上が2億6,402万人（同18.70%）、65歳以上の高齢者は1億9,064万人（同13.50%）となった。前回の調査と比較して、0～14歳が1.35ポイントの増加となったが、15～59歳が6.79ポイントの減少、60歳以上の人口比率は、5.44ポイントの増加となり、子供の占める割合が回復し、出産調整政策（一人っ子政策の廃止）の結果が出ているとしながらも、高齢化が進んでいることが発表された。

### ◆都市化率は順調に推移

一方、20年に常住人口による都市化率を10年の49.68%から20年までに60%前後に高めるという新型都市化計画に関しては、都市部の人口が9億199万人となり63.89%を占め、農村部の人口5億979万人の36.11%を大幅に上回っており、目標を達成したとしている。

新たな工業化、情報化、農業の近代化による発展、ならびに都市への農業人口の移動による都市化政策の実施により、過去10年間で経済的な効果は十分発揮されてきたとしている。



◆10年と20年の国勢調査間の総人口、出生率、都市化率、関連データを修正

第7回国勢調査の結果とともに、11年～19年の間に行われた抽出調査の見直しを行っている旨が発表された。特に出生数は「年平均100万人前後増加する」ことになるとしており、単純計算で900万人、率にして6%の上振れとなり、最終的な数字は今後発表される「2021年《中国統計摘要》」に掲載されるとのことだ。

20年11月に実施された第7回国勢調査の結果は、本来4月に発表される予定が延期されていた。さらに、4月にフィナンシャル・タイムズが「1950年代後半の毛沢東主席時代の悲惨な数千万人の死者を出した大躍進政策による飢饉以来の“初の人口減少の報告”となる予定」と報じたことから、人口は14億を割り込み、インドに抜かれるのではとの憶測も呼んでいた。

◆既に生産年齢人口は減少に転じており、少子化にも歯止めかからず

グラフにあるように中国の生産年齢人口は少子高齢化にともない、13年の10億582万人をピークに既に減少に転じている。また70年代後半に開始した人口抑制政策である「一人っ子政策」も15年に廃止され、2人までの出産を認めたが、一時的な効果にと

どまっている。都市住民が増えることで複数の子供を持つという家庭は減少傾向にあり、5月31日には3人までの出産を認

める、さらなる産児制限緩和に追い込まれている。

直近のデータでは、新型コロナウイルス感染症の流行のため、20年の中国の合計特殊出生率（1人の女性が生涯に産む子供の数）は1.3（cf. 日本1.34）まで下がっており、危険数値の1.5を割り込んでいる。

中国の統計数字は信頼性を欠くといわれる。整合性の有る数値が「統計要綱」でどのように発表されるのか、少子化の行方とともに注目したい。【森山博之】

